

各委員意見取りまとめ

1. 教育委員会の活動状況について
(原案の2～7ページ)

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
1	伊井	・たびたび議論されている、厚田地区での学校統合に関するコミュニティ・スクールの導入に関しては、その目標・目的に合致した教職員の配置が重要となるかと思いますが、教育委員会としてのお考えをお聞かせください。	質問	総務企画課 指導主事 厚田生涯学習課	来年4月開校の厚田学園は、本市ではじめての義務教育学校であり、コミュニティ・スクールの導入についても、石狩八幡小学校とともに先行して進められることから、そのモデルとなる学校づくりが求められていると認識しております。より魅力のある学校づくりを進める鍵となる教職員の配置について、道教委との協議を進めてまいります。

2. 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性

【重点テーマ1 自ら学ぶ意欲を育てる教育】

施策(大項目)1 生きる力につながる確かな学力を育む教育の充実

(原案の9～12ページ)

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
2	鈴木	・学習障害要因を把握・分析し、有効な方策を見出し、学習指導改善を図る取組みが出来るよう一層の支援を望みます。	意見	指導主事	全国学力・学習状況調査、児童生徒質問紙によると、家庭学習時間が全国平均よりも少ない傾向があり、また、テレビの視聴、ゲーム使用頻度が多い状況です。これまでも取り組んでいる「生活リズムチェックシート」の積極的な推進、小中連携で家庭学習強化週間の設定などの方策を継続させることで改善を図ります。
3	鈴木	・幼保小の連携による切れ目のない子育て支援の一層の充実を望みます。	意見	総務企画課	認定こども園などへの情報提供や子育てコンシェルジュによる保護者の保育・幼児教育等の選択の支援を市長部局と連携して進めるほか、幼児期における遊びを通じた総合的な学びから、各教科等における、より自覚的な学びに円滑に移行できるよう、スタートカリキュラム作成に当たり、幼保小のカリキュラムの連携を図ります。
4	伊井	・南線小、緑苑台小で得た知見をぜひ、他の小学校での実践に活かせるシステムづくりを望みます。	意見	学校教育課 指導主事	エキスパートサポーターを配置した南線小、緑苑台小で「授業の内容がよく分かる」と回答した児童が増加していることから、今年度は新たに紅南小に1名配置し、学級経営や学習指導、生徒指導などに対し実践的な指導助言を行っている。今年度、若手教員の不安や指導面での悩みを中堅教員やベテラン教員がアドバイスする「メンター研修」を市内の小中学校の教員を対象として実施し他校への普及啓発に努めた。今後も引き続き普及啓発に取り組んでまいります。

施策(大項目)2 一人ひとりを大切にしたい教育活動の充実

(原案の13～15ページ)

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
5	鈴木	・特別支援教育について共通理解を深め、家庭・教育・福祉等の連携による体制づくりを望みます。	意見	教育支援センター	支援の必要な子どもの情報について、福祉部局(子ども相談センター、こども発達支援センター、石狩市相談支援センター、保健師等)や認定こども園・保育所等と共有し取り進めておりますが、連携による体制づくりは今後、検討してまいります。
6	伊井	・特別支援教育の分野については、既に十分、システム構築が進んでいる状況だと認識しています。それらの活用成果・効果の評価する時期に来ており、それに伴う「分析評価」を次年度以降、望みます。	意見	教育支援センター	新就学、在学児童生徒、中学校への進学等の段階ごとに分けながら取り組みについて検証・分析評価が行えるよう検討してまいります。

各委員意見取りまとめ

施策（大項目）3 独自性が発揮できる魅力ある学校づくりの推進
（原案の16～19ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
7	鈴木	・魅力ある学校（学級・授業）づくりに資する主体的・実践的・組織的研修意識が醸成されるよう一層の支援を望みます。	意見	指導主事	長期休業中に実施している教育委員会主催の研修、学校力向上事業（地域連携セミナー研修）の実施。市内4校（花川南小、中、南線小、樽川中）を拠点校とした授業改善等支援事業による授業改善研修、市内7校の主幹教諭会議といった研修を通して、学校づくりに資する教員の資質・能力向上に努めます。
8	鈴木	・地域の学校としての意識をもって地域住民が参画しやすい体制づくりを今後も積極的に推進されるよう望みます。	意見	総務企画課	コミュニティ・スクールの導入を契機に、これまで以上に地域一体の学校運営を行うとともに、学校を核とした地域づくりとして、地域学校協働活動の推進を図ります。
9	向田	・中学校部活動種目の減少が加速し、団体競技は特に厳しい状況。学校単位の指導者の問題だけでなく、根本的に石狩市内の中学部活動の見直しを行う必要が有るのではないかと。	意見	学校教育課	現在ソフトボール（花川中・樽川中）女子バスケットボール（花川北中・樽川中）など、合同チームを組み練習や中体連等へ出場している部活動もある。今後の部活動の在り方については、学校からの要望を聞きながら情報収集してまいります。
10	伊井	・「学校力向上に関する総合実践事業」を通して、花川地区そして市内小中学校の連携・成果の普及への取り組みは、どのように進められていく予定でしょうか。	質問	学校教育課 指導主事	今年度、学校力向上として実践している学校は、「学校課題研究会」や「10周年学校周年研究発表会」、「地域連携研修研究会」として石狩市内はもとより石狩管内の教職員を対象として取組成果の普及に努めました。今後も引き続き取り組みを進めてまいります。

施策（大項目）4 学校教育を推進する環境の充実
（原案の20～23ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
11	鈴木	・ICT機器活用のスキルアップを図るとともに、リスク対策を十分配慮して活用促進を図るよう望みます	意見	学校教育課	毎年、教職員向けのセキュリティ研修を実施しつつ、パソコン等ICT機器導入及び更新の際には、操作研修を行うなど学校においてスムーズな活用ができるよう取り組み、その他、外部機関実施の研修情報も通知し、スキルアップを図っています。 今後も引き続きセキュリティリスクに配慮しつつ、活用促進を図るよう対応してまいります。
12	鈴木	・特に支援を要する子どもや家庭に対しては「子ども総合支援本部」による一層の連携強化を望みます。	意見	教育支援センター	生活面や学習面などで困り感を持つ子どもや家庭に対する支援策の構築については、本部会議での検討とともに福祉と教育の「庁内チーム」で丁寧な対応に努めており、引き続き連携・協調関係のもと取り組んでまいります。
13	鈴木	・引き続き食への関心を醸成する取組や地産地消の仕組みづくりの推進を望みます。	意見	給食センター	今後も地元産の旬の食材を献立に取り入れることで、子どもたちが地域のことを学ぶ機会にするとともに、地域の生産者と連携しできる限り多くの地元産食材の使用に努めます。
14	向田	・ICT環境はじめ、様々な教育環境で石狩市内の学校格差が、なるべく少なくなることを望みます。	意見	学校教育課	それぞれのICT機器等の更新時期に合わせて順次更新しているが、格差が広がらないよう注視しながら引き続き対応してまいります。
15	伊井	・数値上は、教育用PC・タブレットは一定程度整備されてきている状況だと認識しています。加えて、それらが実際に稼働しているかどうかの調査も、指摘されている通り実施されることを望みます。	意見	学校教育課	「授業展開に応じて必要な時に「1人1台環境」を可能にする環境の実現」に近づけるために、児童生徒のパソコンを順次タブレット化し、利用可能なシーンを増やすという意味での「稼働率上昇」という表現を使っています。 なお、どれだけPCやタブレット端末が利用されているかの具体的調査については、状況を的確に把握するための調査基準や必要要件、また教職員の負担とならないような調査方法を各校の保有台数増と併せて検討してまいります。

各委員意見取りまとめ

【重点テーマ2 思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育】

施策（大項目）1 豊かな人間性と感性を育む教育の推進

（原案の24～29ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
16	鈴木	・豊かな感性を育むために、すべての子ども達に多様なジャンルの活動（文化・芸術・スポーツ）に触れ、体験できる機会の充実を望みます。	意見	社会教育課	文化・芸術分野につきましては、今後も「情操教育プログラム」等を継続実施するとともに、来年度は、昨年度まで旧札幌広域圏組合で実施していた「音楽鑑賞」の実施を検討してまいります。
17	鈴木	・図書館司書と学校司書の連携強化等、現行の諸活動を充実させ、読書意識のすそ野を広げる活動を期待します。	意見	図書館	市民図書館（本館）勤務経験者を学校司書として配置することで、学校図書館と市民図書館の緊密な連携が図られており、特に授業支援（授業で使用する図書や特集展示で使用する図書等の本館からの取り寄せ、レファレンスの補助等）などで効果が表れています。また、本館において定期的に本館司書と学校司書の情報共有の場として「学校司書連絡会議」を開催したほか研修等も積極的に行っており、今後とも継続して行い、児童生徒の読書意欲を促進するように努めてまいります。
18	鈴木	・早期発見（予兆の把握）と共通認識に基づく迅速な対応、当事者に寄り添う支援の強化を望みます。	意見	教育支援センター	いじめや不登校など問題行動の早期の発見と対応のためスクールソーシャルワーカー3名が各学校を訪問し、学校と情報を共有のうえ早期解消に向け支援策の構築にあたっており、引き続き取り組んでまいります。
19	向田	・パートナースクールの取り組みはとても良い事業と思いますが、双葉小学校と望来小学校で実施されなかった理由は？	質問	指導主事	望来小学校の閉校関連行事（運動会、学芸会、閉校記念式典等）に向けて、双葉小学校との十分な活動時間の確保及び日程、交流に向けての教師間の打合せ、双方児童らによる諸準備等の時間を確保できなかったため、実施を見送りました。
20	向田	・問題を抱える児童生徒とその保護者の支援はとても大切で、難しい事業だと思いますが、これからも適切な対応と信頼関係の構築をお願いいたします。	意見	教育支援センター	児童生徒と保護者の様々な悩みや困りごとの解消に向け、学校とともにスクールソーシャルワーカーは相談内容に真摯に向き合い丁寧な対応と支援に引き続き努めてまいります。
21	伊井	・いじめの認知件数（1,011件）が小学校で大幅に上昇した理由をどのように捉えられているのでしょうか。	質問	教育支援センター	いじめアンケートで「嫌な思いをしたことがある」と答えたものをすべて認知することにしたことから認知件数は大幅増になりました。いじめの深刻化を抑止する観点から児童生徒本人が嫌な思いをしたことに学校が寄り添い、早期解消に努めており、小さな事案であってもいじめの解決に向け教職員一人で抱え込むことなく、学校組織として取り組んでいくことがいじめ防止につながるものと考えております。

施策（大項目）2 心身の健やかな成長を促す教育の推進

（原案の30～33ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
22	鈴木	・遊び（運動）の楽しさを知り継続できる環境の中で、危険回避能力や健康を学ぶことが出来るよう引き続き支援を望みます。	意見	総務企画課	学校での体育授業及び体育的活動の充実を図るとともに、市長部局と連携し、放課後の運動の奨励にもつながる、公園などを利用した子どもの居場所づくりの推進を図ります。
23	鈴木	・親子で参加できる、親子の絆を強める活動の機会を多くするなど取組みを望みます。	意見	社会教育課	現在、家族で過ごす時間が減っている家庭が増えており、ワークライフ・バランスの推進は、企業を含めた社会全体の問題となっています。社会教育課としては、まずはできることから始めることとし、親子の絆を強める家庭教育を推進してまいります。また、市長部局との連携を推進し、社会教育施設の有効活用を図りながら子どものみならず、親子でも楽しめる機会の充実を図ります。
24	向田	・石狩市総合型地域スポーツクラブとして、子ども達が気軽にスポーツに関われるACTタイムという教室を月曜日と金曜日に設定しています。どちらも、開始当初から比べて利用人数が倍以上に増加しています。特に、金曜日は、親や大人が本気で子ども達と対戦するために、3倍に増えています。やはり、子ども達だけではなく大人と一緒に係ることで、子ども達も真剣に向き合う傾向にあります。	意見	社会教育課 スポーツ健康課	
25	伊井	・生活リズムの適正化は、小中学生にとって非常に重要です。ぜひ、チェックシートの活用を推進し、その成果が出ることを望みます。	意見	社会教育課	生活リズムチェックシートの結果は、各学校が取りまとめ、生活指導に活用されており、今後も引き続き事業を実施してまいります。

各委員意見取りまとめ

【重点テーマ3 地域で育ち・学び・生きる教育】

施策（大項目）1 次代を担う子どもたちの健やかな育ちの支援
（原案の34～35ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
26	鈴木	・「児童の権利に関する条約」についての再学習を通し共通理解を図り、深刻化する諸問題には関係機関の連携を密にして取組まれるよう望みます。	意見	学校教育課	関係機関との連携を引き続き図っていくとともに、子どもへの暴力防止プログラム（CAPプログラム）を今後も実施し、人権意識を育てながら同時に様々な暴力から自分自身を守ることについて子どもと大人が共に学びあい考える機会を提供してまいります。
27	伊井	・子ども110番や見守り活動の実施体制で、市内各所で格差はあるのでしょうか？防犯機能は実証されているようですので、未実施の地域がないようチェック機能があるべきかと思えます。	意見	教育支援センター	子ども110番の家の登録状況を確認すると、どのエリアも一般家庭からの登録が大半を占めているほか、見守り活動は教職員やPTA、町内会で組織する体制がどのエリアでも確立されています。子どもを見守る視点において、地域をあげて取り組む体制の構築は重要ですので、学校や市長部局と連携・協議してまいります。

施策（大項目）2 地域づくりに活かされる生涯学習環境の充実
（原案の36～38ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
28	鈴木	・現行の各種活動への支援を継続発展させるとともに、参加していない市民に対しては、まちづくりへの参加意欲を喚起する新たな場を提供するなどの取組みを期待します。	意見	社会教育課	市民の学習ニーズに応える「いしかり市民カレッジ」運営ボランティアの拡大を支援していくとともに、様々な学習ニーズに対応できるよう社会教育施設の整備等環境維持に努めてまいります。
29	向田	・施策（大項目）2 心身の健やかな成長を促す教育の推進でも述べましたが、金曜のACTタイムは昨年より学び交流センター体育館を利用して頂いております。今年度は、バレーボール、バドミントン、陸上、タグラグビーなどの種目も増え、確実に参加人数も増加しています。学び交流センター体育館が確実に居場所作りの一つとして有効活用させて頂いております。	感想	社会教育課	今後も施設の有効活用を図ってまいります。
30	伊井	・ユネスコスクールやユネスコ協会を核として、市内全体でESD（持続可能な開発のための教育）の視点を意識した教育を是非、今後とも推進して頂いていただきたい。	意見	社会教育課 指導主事	ユネスコスクールについては、新たな認定校の指定に向けた支援を行ってまいります。また、新学習指導要領の総則、各教科等にも、ESDにつながる「持続可能な社会の創り手」という表現がなされていることから継続して推進し、市内全体でESD（持続可能な開発のための教育）の視点を意識するよう促します。

施策（大項目）3 学習の拠点としての図書館サービスの充実
（原案の39～41ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
31	鈴木	・市民図書館の機能や現行のサービス（活動）を広く市民に知ってもらうための情報発信を継続されるとともに、「出張貸出」や「移動図書館」などの検討を望みます	意見	図書館	各種サービスについて分かりやすくまとめたチラシ等の配布・周知など、効果的な発信に努めます。また、「就学時健診会場」や「石狩手話フェスタ」での図書等の展示・出張貸出を継続します。「移動図書館」についてはたくさんの人的、物的資源が必要と見込まれるため、他館の状況調査を進めつつ、まずは分館等を拠点としたサービスの充実について検討してまいります
32	向田	・図書館でwi-fiが使用できるのは、とても便利でうれしいです。	感想	図書館	多くの市民に利用していただけるように、wi-fi使用可能な環境について今後も引続きPRしてまいります。
33	伊井	・書籍などの貸し出し件数の減と、それに伴う利用者数の減少は活字以外の情報媒体が普及する現在、時代の流れとも言えます。昨年も申し上げましたが、「書籍」を媒体にした図書館利用以外の利用方法も見据えた取り組みも視野に入れることが必要になるのではないのでしょうか。	意見	図書館	平成29年度実施の図書館アンケートでは、図書館に行く理由として、「本を借りる、読む」以外に「調べもの」や「イベントの参加」「喫茶コーナー、野菜の購入」などさまざまな目的があることが確認できました。 令和二年からスタートする新たな図書館ビジョンにおいて、「図書館のなかにまちをつくる」というコンセプトを持つ当館がさらに多くの市民に利用されるよう取り組みについて検討してまいります。

各委員意見取りまとめ

施策（大項目）4 石狩文化の活用による自主的・主体的活動の支援
（原案の42～43ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
34	鈴木	・市民が質の高い芸術文化に親しみ活動意欲を喚起するために、関係機関団体が協力して既存施設で可能な芸術文化招聘事業への取組みを期待します。	意見	社会教育課	さまざまな芸術文化団体による公演等を独自に企画実施している石狩市文化協会に対し、今後も補助金を交付するなど、側面から支援してまいります。
35	伊井	・非常に多くの支援を提供されているという印象を持ちました。その一方で、支援の成果・効果も意識する必要があると考えますが、いかがでしょうか。	意見	社会教育課	石狩市文化協会や石狩市民文化祭への補助を例にとると、これらの支援により、今年度から文化祭事務局が文化協会に移転するなど、指標には表れない効果が出てきております。

施策（大項目）5 ふるさとを学び伝える取組の充実
（原案の44～45ページ）

No.	委員	意見等	扱い	担当	回答等
36	鈴木	・文化財や歴史・自然遺産等に関する保護・保存整備活動を継続して推進されるとともに、学習資源・観光資源としての視点で活かす取組の充実を望みます。	意見	文化財課	学校や郷土研究会との連携を充実させ、学習や観光の視点で文化資料を活かす取組を推進します。 また、ハママシケ陣屋については、まだ明確な手法をもっている段階ではなく、少子高齢化、人口減少という課題を抱える地域が、文化財を後世に伝えていくためにどのような手法があるのか国や道の協力も得ながら検討をしている
37	伊井	・ハママシケ陣屋を中心とした、文化遺産の持続可能な活用とは石狩市ではどのように考えているのでしょうか。	意見	文化財課	ところです。